



かりに税金の働きや選挙の大切さなどに気付くことができるように、地域の人材の活用や資料及びワークシートの工夫を行う。

### ポイント2

身近な槻田公民館・祝町市民福祉センターの建設から、政治の働きについて調べたことを基に話し合う場面において、個々の児童の学習状況に応じて、発展的な学習や補充的な学習を行う。

- 3 目標 利用施設の正式名称は「槻田公民館・祝町市民福祉センター」であるが、以下から祝町市民福祉センターと記述する。  
祝町市民福祉センター建設の経緯について関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、日常生活における政治の働きについて関心を深めようとする。

「関心・意欲・態度」

祝町市民福祉センター建設の経緯に問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決している。また、調べて分かったことを基に、政治は人々の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に判断することができる。

「思考・判断」

祝町市民福祉センター建設の経緯や人々の生活と北九州市や国の政治とのかかわりについて聞き取り調査をしたり、ビデオ教材などを活用したりして調べることができる。また、調べて分かったことや考えたことを新聞などの目的に応じた方法で表現することができる。

「技能・表現」

北九州市や国の政治が、人々の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。

「知識・理解」

## 4 単元計画(7時間)

### 第一次

・身近な公共施設を調べたり、建設費用について話し合ったりして祝町市民福祉センター建設の経緯についての学習問題をつくる。

・祝町市民福祉センター見学の計画や単元の学習計画を立てる。

### 第二次

・祝町市民福祉センターを見学したり、館長さんや区役所まちづくり推進課の方など地域の方にインタビューしたりして調べる。

～  
・調べて分かったことを基に、祝町市民福祉センター建設の経緯をワークシートにまとめる。

### 第三次

・祝町市民福祉センター建設の経緯について調べてまとめたことを基に身近な暮らしと政治のかかわりについて話し合う。

#### 発展的な学習

法律の側面などから、暮らしと政治のかかわりを調べる。

#### 補充的な学習

公共施設建設から、暮らしと政治のかかわりを考える。

・祝町市民福祉センターを更に親しめる施設にするためのアイデアを考え、発信する。

## 5 発展的な学習や補充的な学習へ進むための評価

公共施設建設の経緯について話し合った後、学習問題を振り返り、「役所や議会、税金や選挙、人々の願い」などの言葉を使って、身近な暮らしと政治とのかかわりについてまとめる活動を行い、本時の中で児童の学習状況进行评估する。

そして、北九州市や国の政治が、人々の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解できている児童には発展的な学習を行い、理解が不十分な児童には補充的な学習を行う。

6 発展的な学習，補充的な学習の実際（第三次の 時）

目 標	<p>祝町市民福祉センター建設の経緯について調べてまとめたことを基に，暮らしと役所や議会，税金，選挙の働きとのかかわりについて話し合い，北九州市や国の政治が，人々の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。</p>	
つ か む  深 め る  ま と め る	<p>祝町市民福祉センターができるまでについて，調べてまとめたことを基に，役所や議会，人々の願い，税金や選挙の働きなどのかかわりを話し合う。</p> <p>学習問題「祝町市民福祉センターは，いつ・どこで・誰が計画を立てつくられたのだろう」を振り返り，ワークシートに身近な暮らしと政治のかかわりについて分かったことを書く。</p> <p>評価規準「公共施設の建設・運営には，市や国の政治が人々の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かっている」によって児童の学習状況を把握する。</p> <p>身近な暮らしと政治とのかかわりについて理解していると判断される児童にはワークシートの次の課題に取り組むことを促し，理解が不十分と判断される児童には話し合いの板書等を基にしながら繰り返し指導などを行う。</p>	
	発展的な学習	補充的な学習
調 べ る  深 め る  ま と め る  生 か す	<p>政治の働きへの関心や理解を広げたり深めたりすることができるように，教科書や税金に関する副読本，ビデオ教材，「暮らしと政治」に関する図書資料を選択，活用させながら，政治の働きを調べてまとめるよう助言する。</p> <p>税金の副読本にある「税金の使い道」に着目して調べるよう助言したことで，税金の大切さについての理解を深めることができた。</p> <p>図書資料を使って法律の側面から調べるよう助言したことで，「暮らしを住みよくしていくために政治がある」という政治の目的について理解を深めることができた。</p> <p>消費税が国全体に役立っていることに気付き，自分も政治にかかわっているという認識を広げた児童もいた。</p> <p>ビデオ教材を視聴させたことで，20歳になったら選挙を通して政治にかかわろうと意欲を高めた児童もいた。</p> <p>政治の働きについての関心を高め，理解を深めたことを称賛する。</p>	<p>政治が人々の生活の安定と向上するために大切な働きをしていることを理解することができるように，話し合いの板書等を基に，「地域・役所・議会・選挙・税金」のそれぞれの働きや目的について振り返らせる。</p> <p>地域・役所・議会・選挙・税金のそれぞれの働きやかかわりを再度確認したことで，政治の働きを理解することができた。</p> <p>役所や議会等のキーワードを使って補説を加えながら再度まとめさせることで，公共施設建設の経緯を理解することができた。また，「地域の人々の願いが，政治の働きを通して喜びに変わる」と政治の働きへの関心を高めることができた。</p> <p>「政治は難しい」というイメージから，「政治は地域の人々に役に立つためにあるんだ」という政治の働きの認識を高めることができた児童もいた。</p> <p>政治の働きについて理解することができたことを称賛する。</p>

(3) 研究の成果と課題

成果

(1) 児童の意識調査より(実施日平成15年12月4日)

少人数指導(全学年)

項目(%)	たいへん	まあまあ	半分	あまり	まったく
勉強が分かりやすい	53.8	35.9	6.2	3.1	1.0

教科担任制(5・6年)

項目(%)	たいへん	まあまあ	半分	あまり	まったく
勉強が分かりやすい	24.2	61.3	9.7	4.8	0

「勉強が分かりやすい」と答えた児童は、少人数指導においては89.7%、教科担任制においては85.5%と高い評価であった。少人数指導や教科担任制がともに「確かな学力の向上」につながった。

(2) 児童の学力検査の結果より

5・6年生の同一児童による、算数科の2年間の「教科総合」評価結果の比較

a 5年生

%	十分満足	おおむね満足	努力を要する
平成14年度(4年生)	65	27	8
平成15年度(5年生)	52	41	7

b 6年生

%	十分満足	おおむね満足	努力を要する
平成14年度(5年生)	42	30	28
平成15年度(6年生)	45	39	16

「努力を要する」と判断される児童の割合は減少の傾向にあり、児童一人一人に「確かな学力」が身に付いてきていることが分かる。しかし、「十分満足」と判断される児童の割合も減少の傾向が見られる。個に応じたきめ細かな指導が十分でないことが分かる。補充的な学習の成果はあるが、発展的な学習においては、更なる研究が必要である。

課題

- (1) 専門的な指導力が発揮できる音楽科、図画工作科、家庭科、体育科においては更に教科担任制の取組を考えていきたい。
- (2) 補充的な学習や発展的な学習の内容については、算数科・理科を除いてまだ明確ではない。今後も研究が必要である。特に、学力検査の結果からも分かるように、発展的な学習に重点を置いて取り組みたい。
- (3) 総合的な学習の時間の充実も視野に入れ研究推進に取り組みたい。

(4) 成果の普及方策

平成14年10月31日(木)に学力向上フロンティアスクール実践交流会を開催。  
平成15年7月2日(水)に学力向上フロンティアスクール実践交流会を開催。  
平成16年10月21日(木)に学力向上フロンティアスクール実践交流会を開催予定。  
研究成果普及のためHPを作成。更に、普及活動として研修視察を受け入れている。

(5) その他

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	